

☆2月・3月・4月・5月の活動☆

採集観察会のお知らせ 八王子城址

第四回 2月18日(日) 午前10時集合

集合地点: JR中央線 高尾駅 北口 雨天決行

(JR中央線 新宿より特快で42分、快速55分)

世話人は新海明 (TEL. 0425-22-2605) ・板倉泰弘 (TEL. 0474-82-8921)

次の採集観察会 合宿の予定

採集観察会 5月・7月・10月・2月 神奈川県 逗子市 神武寺

合宿 信州白馬 方面 (以上、詳細次号)

例会総会の案内

期日・所 4月22日(日) 午前10時開会

会場 駒場住区センター (これまでの大橋区民会館ではありませんので御注意!)

交通 別記の地図を参照して下さい。

同封の葉書で出欠・講演の有無を御連絡下さい。

世話人は事務局・熊田憲一 (TEL. 045-413-3375)

答同例会報告 出席者数は学会規模であった!

26.Nov.1989 於 駒場住区センター

(1) 開会 (篠原圭三郎) 進行: 新海明、スライド: 高橋登。 (2) 講演

①新海明・吉田嗣郎・伊藤浩見「カバキコマチグモの♂の側胚葉の役割」; VTR映像の解析で種特異的な長い側胚葉はメスの外雌器を探り当て、引っかけるのに使用される事が判明した。

②谷川明男「日本産コガネグモダマシ6種について」; 本属には未記録種3種と未記載種2種がある。西表島には3種、本州に2種(内1種が既知種)、北海道に1種を確認した。

③梅林力「ワスレナグモの交接」; 1989/8/17の昼、自宅の庭でワスレナグモのオスがメス巣への出入りを繰り返しているのを観察。約3時間の間に34回出入りを繰り返した。

④笠岡文雄「最近集めたクモの雑貨」; ハロウイングッズや中国産クモ切手、紙皿などを紹介。

⑤篠原圭三郎「アカムカデの学名はSexspinosisではない」; 北米産に同定されてきた日本のアカムカデは触角の節の毛に相違があり、新種の可能性が高い。

(3) 記念撮影・昼食 (4) 講演・自己紹介

⑥山川昇「兵庫県およびその周辺府県におけるケアシアカムカデ類」; 当地のケアシヘには4型が区分される(長門型、神戸型、三好型、小川型)。

⑦新島渕子「ヤンバルトサカヤスデの生活史」; 沖縄で7月と12月に群遊が見られる本種は台湾では群遊しない。これは気温と幼虫の温度要求性の関係と見られる。

⑧牧孝匡「オオツチグモの脱皮について」; 飼育下で2頭とも脱皮した。

⑨斎藤慎一郎「コガネグモの方言」; ○○コブと呼ぶ系統とダイリョーと呼ぶ系統がある。

⑩新海栄一「アシナガグモ類の網型と捕虫行動について」; アシナガグモ類では網の役割が小さい。野外で卵のうが不明なクモあり(シロカネ、ドヨウグモの類)。

⑪板倉泰弘「スジアカハシリグモが静止する地上からの高さ」; 大きいクモは丈高い草の頂葉に。小さなクモは丈低い頂葉に静止する。要因は不明確である。

⑫池田博明「ヒメグモの生活史」; オスのメス網への侵入、オス同士の闘争などがある。

⑬萱嶋泉「韓国クモ事情」; 10月中旬、韓国にマツバノタマバエ除去の応用クモ学講義を行った。

(5) 閉会(萱嶋泉) (6) 懇親会

出席者：池田博明・板倉泰弘・梅林力・大石征夫・小野辰嗣・加藤むつみ・金野晋・萱嶋泉
木藤幸雄・木村知之・熊田憲一・棚沢新・桑原幸夫・小峰光弘・斎藤慎一郎・笛岡文雄・貞元己良
佐藤幸子・篠原圭三郎・新海明・新海栄一・諏訪哲夫・高橋登・高橋祐子・田副幸子・谷川明男・
新島渕子・西野洋一・萩本房枝・林秀幸・東千都子・平松毅久・布施佳子・古浜隆・牧幸匡・
山川昇。

合宿報告 愛知で夏合宿－中部蜘蛛懇談会と19年ぶりに共催 板倉泰弘

愛知県東加茂郡足助町で中部蜘蛛懇談会と19年ぶりに共催で合宿が行われました。1989年7月29日から31日の3日間で、宿泊は一羽の白鷺が湯につかって傷をいやしたと伝えられる白鷺温泉の「白鷺館」でした。後ろに山、前に巴川が流れる大変すばらしい環境です。

29日は台風のため関東地方の交通機関が混乱をきたして集合がバラバラになりました。中には深夜に到着された方や、東岡崎から白鷺温泉までタクシーで6000円もかけて来られた方もありました。一方、愛知では3日間とも天気で、関東で土砂崩れがあったなどとは夢にも思えませんでした。東京・中部あわせて20名の参加がありました。

29日の夜はアユを食べ、温泉につかって疲れをいやした後、宿の周辺で夜間採集を行い、トリノフンドマシ、シロオビトリノフンドマシ、クロトリノフンドマシ、アカイロトリノフンドマシ、オオトリノフンドマシのトリノフンドマシ類5種の他、オダカグモ、ハラビロセンショウグモなど80種以上が採集されました。翌日の夜には同じ場所で長島さんが体長3mmのマメイタイセキグモの幼体を採集されました。

30日の午前中は東海随一のモミジの名所、香嵐渓の南側で採集を行いました。トゲグモ、ゴマジロオニグモなど70種以上が記録され、この中にはビジョオニグモなど愛知県初記録種がいくつかありました。午後からは北設楽郡設楽町の段戸裏谷原生林へ向かいました。標高約100mのモミ、ブナ、ミズナラを主体とした原生林で、ここでの源流でシノビグモを観察しました。樹木の表面のコケに生息するサラグモの一種やキンヨウグモ、ホンクロボシカニグモなどを採集できました。

31日は午前中、かつて中馬の宿場で白壁の倉が残る足助の町並を筆者の案内で見学し、名物の山ごぼうを買いました。帰りに岡崎公園でキシノウエトタテグモを観察して解散となりました。

2泊3日の短期間で、見せたい物も十分お見せできませんでしたが、奇跡的に天候に恵まれてクモも観察できました。また、何よりも東京と中部の会が一つになって合宿できたことは大変に意義のあるものであったと考えます。案内をして下さった緒方さんに心から御礼申し上げます。関東のみなさん、ぜひともまた愛知へおいで下さい。今回お見せできなかった所を案内しましょう。

観察会（八王子城跡）報告 1989年10月22日（日）曇りのち雨

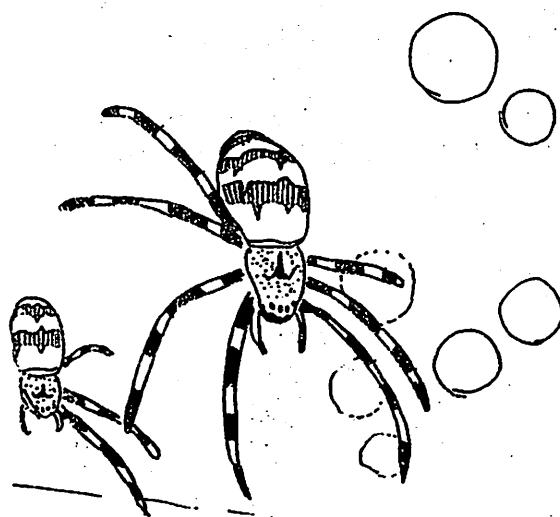
参加者：池田博明、板倉泰弘、稲葉茂代、大石征夫、大石洋人、小峰光弘、貞元己良、新海明、新海栄一、高橋登、谷川明男、平松毅久、布施佳子、古浜隆

誰が言うともなく、「いつもの通りの雨降りから考えれば天気は上々」の曇り空のもとで、今年度第3回目の八王子城跡での採集観察会が行われました。集合場所のJR高尾駅で東京蜘蛛懇談会の目印の旗を掲げていたところ、そばにいた人から「記念写真撮らせてほしい」との要望がありました。この方は家入淳氏といって、以前からクモに興味を持っていたとのことで、早速会員になっていただくように勧誘しました。氏もこのような会が東京にあったと知って大いに感激した様子でした。会員の拡大に貢献したこの懇談会の旗は小峰光弘氏と奥様の手によるもので、昨年から採集観察会の際のシンボルとなっています。そのうちに、Kishidaia誌上で紹介しようと思っています。

今回は、寒さのせいもあってか96種とやや不作でした。

採集観察したクモの仮リスト (F 卵成体, f 卵亜成体, M ♂成体, m ♂亜成体, n 幼体)
順不同。

ユノハマサラグモn, クスミサラグモf m n, アシナガサラグモn, アショレグモm n,
シリサラグモn, タマヤミサラグモM, ハナサラグモF, カラフトオニグモn, ヨシテゴ
ミグモm n, メガネドヨウグモn, ヤマジドヨウグモF, オニグモn, ヤエンオニグモn,
コゲチャオニグモn, チュウガタコガネグモn, コガタコガネグモF, トガリオニグモn,
ヤミイロオニグモm n, ゴミグモn, ジョロウグモFM, オオトリノフンドマシ卵, サガ
オニグモn, カラオニグモn, キザハシオニグモn, ゲホウグモn, クサグモ卵, ヤマヤ
チグモFMm n, コクサグモF n, メガネヤチグモF, カチドキナミハグモMn, ヤチグ
モF, フタオイソウロウグモn, オナガグモn, ツノナガイソウロウグモF n, ムナボシ
ヒメグモn, ホシミドリヒメグモm n, ヒメグモミF n, ヤリグモn, コガネヒメグモn,
ムラクモヒシガタグモn, オオヒメグモn, アシブトヒメグモn, バラギヒメグモn, キ
ヨヒメグモ卵, カニミジングモn, ツクネグモFM, , ナンブコツブグモm n, カラカラ
グモm, ナルコグモn, ヤマジグモn, ヨリメグモn, ウズグモn, マネキグモn, オウ
ギグモF, ジグモn, キノボリトタテグモn, カネコトタテグモn, ユウレイグモF n,
シロカネグモの一種n, コシロカネグモn, キンヨウグモF, センショウグモ卵, ヒラタ
グモn, ヤマハタケグモF, ササグモn, ハラクロコモリグモn, フジイコモリグモf n,
エビチュコモリグモM, オオヤミイロカニグモn, セマルトラフカニグモn, トラフカニ
グモn, アマギエビスグモn, ハナグモF n, ワカバグモn, シャコグモn, アサヒエビ
グモn, キハダエビグモF, ヤドカリグモf, クマダハナグモm, ウススジハエトリF,
マミジロハエトリn, ムツバハエトリn, カラスハエトリn, アリグモf n, ヤサアリグ
モn, ウラシマグモの一種n, コムラウラシマグモFM, ウコンフクログモF, トビイロ
フクログモf, カバキコマチグモn, ネコグモn, スジアカハシリグモn, アオグロハシ
リグモn, イオウイロハシリグモn, アズマキシダグモn, コアシダカグモM, (新海
明)



名古屋での
世界デザイン博の
三菱未来館の展示

(荻本さん 提供。)

原図は写真です)

* 1モは黄色と青

全体の形はショウウグモ

に似ています

クモと映画

笹岡文雄

じつと脂汗がふきだすジェームズ・ボンドの背中に、うごめく一頭のタランチュラ。クモと映画というとすぐに思い出す、「007／ドクター・ノオ」('62, 007/Dr. No, 米)の一シーン。いくら007シリーズの第一作といつても主演スターの背中にほんとうの毒グモをはわすなんぞ、常識的に考えられないではありませんか。クモと映画の関係とはその容姿をかわれ、ない毒まで振り回すはめになる歴史だろう。まあ考えようによつては悪役中の悪役といつてもいいかもしれないが。

さてこの映画では脇役だったが、“主演”としてもっとも有名なものが「タランチュラの襲撃」('55, Tarantula, 米)だろう。これは生物を大きくする特殊な栄養素の実験によって、30歳にも巨大化したタランチュラが人々を襲う話。生きたタランチュラの実写を画面合成した作品で、クモの動きがよく観察できる。

この映画が撮られたころはたびたび行なわれた核実験の影響からか、放射能によってやたら生物が巨大化するというものが多かった。「放射能X」('53, Them!, 米)のアリ、「カマキリの脅威」('57, The Deadly Mantis, 米)のカマキリ、「緑の地獄から来た生物」('57, Monster from Green Hell, 米)のハチ、「黒い蟻」('57, The Black Scorpion, 米)のサソリといった具合で、先のタランチュラもこの系列になろう。「黒い蟻」はサソリだけでなく、大グモ（但しクモもサソリも人形アニメーションで種類不明）も登場する大盤振舞の作品だった。さらに1958年にはもう一本「吸血原子蜘蛛」(The Spider, 米)でも、タランチュラが巨大化した。この後は巨大化したクモが主役になるものは1975年の「ジャイアント・スパイダーの大襲来」(The Giant Spider Invasion, 米)まで時代が下る。これは地球上のブラックホールから出現した小さなクモが次々巨大化して、人々を襲うというとんでもない話。その上見るからに安普請で脚をバタバタ上下するだけの巨大グモが人間を丸呑みしてしまう。ただ子グモには本物のタランチュラを、どこから集めたのかと思うほど大量に使っていることだけが見所だろう。

また大きくなったクモに入間が襲われるパターンとは逆に、小さくなつた入間が“普通”的なクモと戯う話もできた。「縮みゆく人間」('57, The Incredible Shrinking Man, 米)は放射能と殺虫剤の相乗作用で縮小した人間の話で、クモとのからみは一つのエピソードとして登場する実写合成のタランチュラと縮んだ男が縫い針を武器に闘うところは、特撮史上に輝く名シーンとなっている。

もっともクモ形の怪物が登場するものも含めると、クモ映画はぐんと数が多くなる。「月へのミサイル」('58, Missile to the Moon, 米)では月世界の巨大グモ、「X星の不思議な世界」('58, Strange World of Planet X, 英)では異次元の巨大グモが、クモとコウモリとネズミをたして三で割ったようなコウモリグモの出る「巨大アーベバの惑星」('60, The Angry Red Planet, 米)、「地獄のクモ」('66, Aranias Infernales, メキシコ)では異星人の操る巨大グモなどがある。これらの映画に共通するのは、クモがもたれているイメージをよりグロテスクに、誇張して作られている点であろう。ただの誇張にしても突飛な発想が多いので、一種のジョークとして見れば面白いかもしれない。



89/11/10
アサヒグラフ
「手塚治虫物語」より
提佐・笹岡

近況報告 (合同例会返信葉書による近況をお知らせします)

板倉 泰弘さん：東京都北区の環境調査をやっています。それから、20代や10代の人たちへ。“30代、40代の方々のように、連絡をとりあって、仲良くやっていきませう！！”

新海 明さん：今夏は某事件のために、五日市の広徳寺の調査は行けませんでした。来年は、また夜間調査を再会しようと思っています。

佐藤 幸子さん：10月17日温度（ベランダ）. 10:00, 17°C. 22:00, 12°C. 気がつくと、もう冬が目の前にいました。夜中にベランダのクモをさがしました。（10/16）。普通なら誰かしら居るのですが、一匹のクモも見当たりませんでした。ちょっとおかしいのではないかと思って居ります。

萩本 房枝さん：横浜の中心部に近いわりには、自然が多くて、林などもあるせいか、クモが多く家にはいってきます。ずいぶん前アシダカグモの子が天井からたくさん落ちてきてだいぶ困った日もありましたが、そのアシダカグモか？ 4cm位に成長している姿を見てほっとする日もあり、色々です。

牧 孝匡さん：飼育中のカネコトタテグモのうち、2個体が脱皮して10月初旬、オスの成体になりました。メスの成体も飼っているので、うまくゆけばカネコトタテの交接が見られるかもしれないと思っている今日このごろです。

萱嶋 泉さん：10月16日～23日まで韓国クモ研究所の招待でミズグモの調査に行ってきました。またトングウ大学の大学院学生に応用クモ学の講義をしてきました。

新海 栄一さん：あいかわらず忙しい毎日を送っております。クモを見る時間はほとんどありませんが、今年はキイロハラダカグモの網を見ましたので満足しています。

平松 繁久さん：大学時代クモを虐待していたので、ある先生から「おまえはひなびた温泉宿であんまに化けたジョロウグモの精にくびり殺されるであろう」と言う有難い（？）御託宣を受けました。最近では、虐待こそしていないもののクモをさらって来て不法監禁する始末。クモ界の犯人、談話会新加入の平松です。どうぞよろしく。

木藤 幸雄さん：鳥の方が忙しくて、クモの勉強が出来ません。来年は無理にもヒマを作つて；参加したいと思っています。よろしく御指導ください。

稲葉 茂代さん：今年は転勤した事もあってなかなかクモの研究？観察ができません。談話会の採集が、ゆいいつの楽しみです。

斎藤慎一郎さん：稼ぐに追いつく貧乏なし。食うや食わずで山中にコモリグモの昨今です。

棚沢 新さん：新しく入会しました。蜘蛛の研究、観察は、長いこと行なっていますが、まだまだ未熟な所もあるので、色々とお教えてください。よろしくおねがいします。

布施 佳子さん：恐る恐る出席します。未だ残っている庭の女郎ぐもに餌をやっています。

島田 順一さん：クモ採り屋から焼き鳥屋になって、早3年以上過ぎてしまいました。店の方はほぼ順調に伸びていますが、逆にクモの世界からは、だんだん遠ざかっていくようです。談話会通信等によって皆様やクモの近況を知ることができるのが、唯一の接点です。これからもよろしくお願いします。

近藤 昭夫さん：今秋も赤湯産、小田原産のジョロウグモ各40個体を採卵のため飼育しています。今年は暖かく例年にくらべれば餌が多いので、小田原産でも2回産卵、赤湯産では3回産卵を見られそうな状況です。

梅林 力さん：連合運動会、2泊3日の移動教室、学芸会と忙しい毎日の2学期。やっと

大きな行事は終わりホッとしたところです。今後は個人面談、受験とまた忙しくなりそうです。

高田 勝さん：沖縄でオオジョロウグモに出会うことができ、大感激でした。ヤンバルクイナが夜明かしした木に網を張っていました。タランチュラとガラガラヘビが見たくて、今年もアリゾナ砂漠を歩いたのに、見事にふられました。

小泡 牧子さん：御無沙汰しております。11/12挙式予定です。11/26というとだいたい新婚旅行から帰って一週間。会社もやめないでトーブンの間居るつもりなので、バタバタしてるとと思われますので、今回も残念ながら見送りさせていただきます。

濱田 龍一さん：4月より筑波から福山へ転勤しました。

中平 清さん：今年生まれ、来年成体となるはずのアオグロハシリグモの幼体を飼育中。来年の事を言うと鬼が笑う、と言うが、来年はスジアカハシリグモの飼育を始めようと思っている。

関口 晃一さん：先約があり出席出来ません。悪しからず。

加村 隆英さん：大学や学会本部の仕事にも少し慣れてきました。ともかく元気でやっております。

田中 穂積さん：大学とは言え、教務の仕事もやっています。毎日忙しく働いています。なかなか思う様には出来ません。早くもっと自由に、自分の仕事が出来る事を願っています。出席出来る日を早く見つけたいと思っています。

須賀 瑛文さん：談話会通信No.67 落手いたしました。内容もますます充実、面白く拝読させていただきました。小生、相変わらず公務に追われている毎日です。休日といえども出勤が多く、なかなか自然観察に出かける暇がないのが残念です。

林 傑夫さん：公務が入っております今回も出席出来ません。盛会をお祈り申し上げます。

八木沼健夫さん：退職後は、これまでにたまつた標本同定や、大学から家へ戻した書籍・文献の整理に時間を費やしました。これからは研究を再開し、今までのおくれを取り戻したいと思っています。またよろしく御指導のほどをお願いします。健康はまあまあといったところで、特に異常はありません。

小澤 實樹さん：まとまったものはありませんが、元気でやっております。さて、この日は、知人の結婚披露宴に招かれ、大切な合同例会ですが、残念です。御盛会をお祈りいたします。

石野田辰夫さん：相変わらず“学校に行かない”という生徒の尻をひっぱたいたり、やれこのほいさと引いてみたりです。私の若い頃は、学校に行かせてくれーと親に頼み込んだのに、いったいどうなっているのかと、ホホをつねってみる近頃です。これでクモ観察の楽しみがなかったら頭がくるってしまうというもんです。御盛会を祈ります。

吉谷 昭憲さん：毎月最終日曜は写真の会の集いがあり、事務局を担当しているため、また、今回は写真展の打合せもしなくてはいけないので欠席させていただきます。今年は努めて参加させていただけるよう都合したいと思っています。一度も発表の場ももてずに申し訳なく思っております。

千国安之輔さん：「クモ類図鑑刊行」のあとしまつで、ごたごた雑用に追われています。会員の皆様が、多数御購入くださいました由、ありがとうございます。後日忌憚のない御批判をいただき度く、楽しみにしています。

大熊千代子さん：来春発行予定の「クモの学名と和名」（八木沼・平嶋・大熊共著）の原稿

仕上げに余念がありません。8~9割方は出来ているのですが10割まで出来るのに、苦労しています。10月中にはでも終わるでしょう。東京蜘蛛談話会通信No.67と新聞のコピーを澤山、大変有難うございました。

(次の方からも返信を頂いています)

木村 英二さん・根元 久さん・藤井 靖浩さん・古川 渉さん・松本 誠治さん・
池田 博明さん・笹岡 文雄さん・大石 征夫さん・高橋 登さん・古浜 隆さん・
熊田 憲一さん。

トピックス

吉田飼郎さん（神奈川県秦野市、ネイチャー・シネプロ）は昨年、「わくわく動物ランド」のベストカメラマン賞を受賞されました。おめでとうございます。

アメリカ蜘蛛学会誌（The Journal of Arachnology, 17:374-375）に小野展嗣さんの日本のカニグモ科総説の書評がでした。書評者はカナダのドンデール氏です。

WATCHING ホワイトレディ・スパイダー 榍沢 新

1月17日の「わくわく動物ランド」に、砂漠のクモが登場しました。「ホワイトレディ・スパイダー」「バックフリップ・スパイダー」「ウオツリグモ」などが登場しました。

ホワイトレディは、談話会通信の65号に、『動物映像大百科vol.7』のクモ篇紹介にも書かれています。

このクモは、地面に自分が入るくらいの穴を掘り、穴の中に入ったクモは、糸イボをたくさん使用して糸と土をつづりあわせ、土の巣を作ります。そして、その穴の中で獲物が近寄ってくるのを待つということでした。

ホワイトレディの名のとおり、体はまっ白で、体中に細かい毛がびっしりと密生しています。そして糸イボ周辺に丸い黒斑があるのが、とても印象深いです。このクモは、体が白いことや、たくさんの毛が密生しているところからみて、砂漠の暑さにうまく適応しているなと思いました。

バックフリップ・スパイダーは、体が透き通るような茶色で、一見ハエトリグモのようです。このクモは、砂にジグザグに糸をかけて、まるでふとんに入るよう、糸をかけた砂の中にもぐりこみます。そして餌が通るのを待つというわけです。番組ではアリを捕獲する場面がありました。クモはふくろごしにアリにかみつき、中にひっぱりこんで、食事を開始するのです。まるで、ジグモの餌狩りの様子を見ているようでした。他に、ポツナワにある、オカバンゴデルタというオアシスに住むウオツリグモが、水面近くにあがってきた魚を、早わざで捕獲する場面もありました。

これらの撮影は、アフリカ大陸のナミビアにあるナミブ砂漠と、ポツナワのオカバンゴデルタで行われたようです。

砂漠のクモ達は、そのひとつひとつの動作がおもしろく、僕はこのクモ達の観察をしてみたいなあと思いました。

2.Feb.1990

編集部からのお知らせ

昨年同様、通信恒例のクモ学10大ニュースを募集しています。自薦・他薦を問いませんので、お寄せ下さい。（ちなみにこれは余興であって公正を目指すものではありません）。

- 会誌編集：〒223 神奈川県横浜市港北区新吉田町1523 谷川明男
- 通信編集：〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099 池田博明

会計だより 郵便振替口座 東京 7-74885 東京蜘蛛談話会

会費領
会費支領 1989年9月~ (敬称は省略させていただきます)
1990年1月中旬 (一般2800円・学生2000円)

1987年(昭和62年)度 1988年(昭和63年)度
水沢 正明。 水沢 正明・高橋 米夫。

1989年(平成 元年)度
水沢 正明・高橋 米夫・貞元 已良・高橋 登・米山 明美・福山 研二。

1990年(平成 2年)度
斎藤慎一郎・梅林 力・貞元 已良・高橋 登・木藤 幸雄・小野 展嗣・
木村 知之・吉田 嗣郎・福山 研二・小澤 實樹・藤井 靖浩・濱田 龍一・
野戸 章・笹岡 文雄。

1991年(平成 3年)度
斎藤慎一郎・梅林 力・貞元 已良・小澤 實樹・緒方 清人。

1992年(平成 4年)度
貞元 已良・馬場 武彦。

1993年(平成 5年)度
馬場 武彦。

バックナンバー代領収

徳本 洋・糊沢 新。

寄付

合同例会出席談話会員一同様(84円)。

会員移動

(入会)

木村 知之: 〒215 神奈川県川崎市麻生区東百合ヶ丘4-38-12

吉田 嗣郎: 〒259-13 神奈川県秦野市千村159-7

(住所変更等)

高橋 米夫: 〒869-12 熊本県菊池郡大津町引水15-3

航空局大津宿舎35号

馬場 武彦: 連絡先 〒814-01 福岡県福岡市早良区星の原団地72-202

里本 昌一 方 (1989.11.28よりUCLAに留学)

緒方 清人: 〒472 愛知県知立市山屋敷町東山10-6

(その他)

水沢 正明氏: 業務多忙のため退職まで休会。

古沢 笑子氏: 前号で規約摘要退会となっていましたが、休会。

事務局(会計を含む) 〒221 神奈川県横浜市神奈川区片倉町199 熊田 憲一

領収証の必要な方は振替用紙通信欄にその旨お書きください。

1989年(平成元年)11月16日(木曜日)

喜寿出版

長野・豊科町の千国さん

【松本】長野県南安曇郡
豊科町成相、日本クモ

学会研究員千国安之輔
さんが、国内で確認さ
れたクモのびとんどを収
録した「写真日本クモ類
大図鑑」を出版した。中
学校長を退職後二十年の
歳月をかけた研究の成果
で、学会関係者の高い評
価を得ている。

図鑑を手に、出版を喜ぶ千国安之
輔さん=長野県・豊科町の自宅で



これまでいじることは国内外の
専門書に七種を見ない大き
な特徴で、小、中学生から
研究者まで利用できる貴重
な書物」(八木
招集夫・日本ク
モ学会前会長)

「教師をやめて
かうライフ一
くとして取り組
んでいた。学会
の若い講師や全
国各地で協力し
ていただいた人
たちに感謝した
い」と念願の
出版を喜んで
いる。定価三万
八千八百四十円。(税込
み)。

「タイロコヨリ

が国内では四十七年ぶり
に発表した「タイロコヨリ」

が、ついに再版された。自ら撮った
写真で、持つて写真撮影す
るなどの苦心を重ねてき
て、生きたまま送りてもら
った。

西四十歳を紹介した。写真
いふ。「すべての種が写真で示
べる」とは国内外の
専門書に七種を見ない大き
な特徴で、小、中学生から
研究者まで利用できる貴重
な書物」(八木
招集夫・日本ク
モ学会前会長)

千国さんは小、中学校の
理科の教諭時代からクモの
生態に興味を抱き、中学校
長を退職後、クモの図鑑作
りをハイブームに決めて、
自分で採取できなかった
なるまで持つて写真撮影す
るなどの苦心を重ねてき
て、生きたまま送りてもら
った。

540種 3000枚の写真で 喜びの大成 クモ図鑑

めで克モにエーテル麻酼を
かける独自の撮影法で、色
彩や斑紋など生きままの
姿を雌雄の対で分類。種別
に生殖器の拡大写真も添え
てある。

また、昨年春に千国さん
が国内では四十七年ぶり
に発表した「タイロコヨリ」

が、ついに再版された。自ら撮った
写真で、持つて写真撮影す
るなどの苦心を重ねてき
て、生きたまま送りてもら
った。

西四十歳を紹介した。写真
いふ。「すべての種が写真で示
べる」とは国内外の
専門書に七種を見ない大き
な特徴で、小、中学生から
研究者まで利用できる貴重
な書物」(八木
招集夫・日本ク
モ学会前会長)



クモの標本を手に愛するべき千国さん

「最後の一ハイワークをやりとげ、今、人生最高の時です」。このほど五十数年にわたるクモ研究の成果を「写真 日本クモ類大図鑑」(偕成社)として刊行した南安曇郡豊科町の千国安之輔さん(68)は、感慨を込めてこう語る。というのも、昭和十六年に刊行した「日本アルプス山系の蜘蛛(くも)」の改訂を決意し活動を開始したのは、三十八年前の教員生活を辞した昭和四十四年。六十歳を目前にしてのあまりにも遅いスターとなった。

以来、治子夫人を助手に伴い、北は北海道から南は沖縄まで採集・調査を続ける二三十年。文字通り草の根をかけ、はいりまわって集め、撮影した標本写真は五百四十種に及ぶ。行き詰ったが、退職後のお文化大賞をはじめ、さまざま賞も受けている。

クモ研究の集成を終えて

「飛行機で帰宅。生きているクモをエーテル麻酔し、展開・整形して撮影した。また、種の分類に

「最後の一ハイワークをやりとげ、今、人生最高の時です」。このほど五十数年にわたるクモ研究の成果を「写真 日本クモ類大図鑑」(偕成社)として刊行した南安

は飛行機を使って、帰り重要な雌雄の生殖器も、は飛行機で帰宅。生きているクモをエーテル麻酔し、展開・整形して撮影した。また、種の分類に

「最後の一ハイワークをやりとげ、今、人生最高の時です」。このほど五十数年にわたるクモ研究の成果を「写真 日本クモ類大図鑑」(偕成社)として刊行した南安

は飛行機を使って、帰り重要な雌雄の生殖器も、は飛行機で帰宅。生きているクモをエーテル麻酔し、展開・整形して撮影した。また、種の分類に

「最後の一ハイワークをやりとげ、今、人生最高の時です」。このほど五十数年にわたるクモ研究の成果を「写真 日本クモ類大図鑑」(偕成社)として刊行した南安

は飛行機を使って、帰り重要な雌雄の生殖器も、は飛行機で帰宅。生きているクモをエーテル麻酔し、展開・整形して撮影した。また、種の分類に

「最後の一ハイワークをやりとげ、今、人生最高の時です」。このほど五十数年にわたるクモ研究の成果を「写真 日本クモ類大図鑑」(偕成社)として刊行した南安

は飛行機で帰宅。生きているクモをエーテル麻酔し、展開・整形して撮影した。また、種の分類に

「最後の一ハイワークをやりとげ、今、人生最高の時です」。このほど五十数年にわたるクモ研究の成果を「写真 日本クモ類大図鑑」(偕成社)として刊行した南安

1959年(平成元年)11月26日

東京 二 錄

クモの写真図鑑刊行

黙の麻酔で眠らせ接写

20年かけて540種の標本

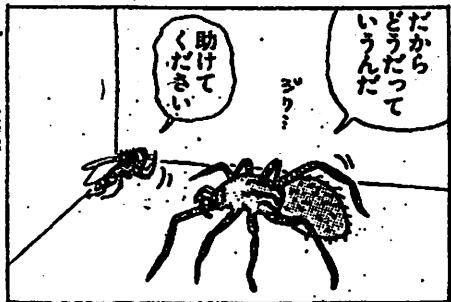
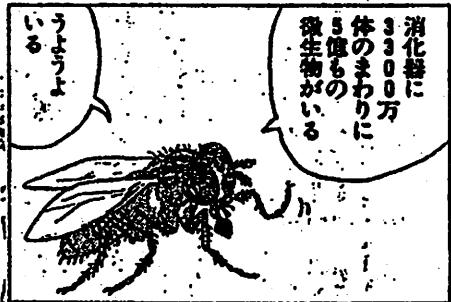
「蜘蛛図鑑」など10冊余の
書籍を著した井上義久(いのう)
氏が、ついに「蜘蛛の写真図鑑」
を発表した。井上氏は、1939年
から、蜘蛛の研究を始めた。
最初は、蜘蛛の生態を観察する
ための虫籠作りから。その後、
蜘蛛の死体を用いて接写する
研究が進んだ。しかし、蜘蛛の
死体では、姿勢や特徴が保たれ
ない。そこで、井上氏は、麻酔
で蜘蛛を死なせることなく、
そのままの姿勢で撮影する方
法を考案した。これが、現在の
「睡眠接写」だ。



「蜘蛛図鑑」など10冊余の
書籍を著した井上義久(いのう)
氏が、ついに「蜘蛛の写真図鑑」
を発表した。井上氏は、1939年
から、蜘蛛の研究を始めた。
最初は、蜘蛛の生態を観察する
ための虫籠作りから。その後、
蜘蛛の死体を用いて接写する
研究が進んだ。しかし、蜘蛛の
死体では、姿勢や特徴が保たれ
ない。そこで、井上氏は、麻酔
で蜘蛛を死なせることなく、
そのままの姿勢で撮影する方
法を考案した。これが、現在の
「睡眠接写」だ。



理論派



〈多産〉メスは1回に200個の卵を産む。これを一生(2か月程度)に5~6回くりかえすのだ。



長野県生まれ。長野県師範学校卒後、県下の小、中学校の教諭、校長を歴任。理科教育に情熱を注ぐ。昆虫の著書多数。78歳。

顛

世界で初めてクモの写真図鑑を完成した

千国
安之輔さん

その中から三千枚を記載
された。それから写真撮影と
それを分析して研究した。これが
日本に生息するクモ五
百四十種を説明した。
「助手代わらの女房」とい
ふになれる女性研究者、左
人で、日本中を旅回りま
した。山に登り、林に分け
針を削って作った面活性剤・
油を用いて作った顎動
力を手当して、日本アルプ
ス山系の蜘蛛、先日、酒子夫人と金婚式
の祝いをしたばかり。山
に登った。しかし、歩きで疲れた足は、いざな
に、内容が古くなり改訂
時間がかかるので、表情豊かに教
えます。

入り、増刊にはいつくば
てクモを採集しました」
「世に貢献する力やハエを捕
つてクモを与えて、自宅に持
ち帰って特設ハウスで飼
うとした。しかし、クモの生態が約九万枚。
撮った写真が約八万枚。
増補を決意。昭和四十四年
には断限。梓川村立中学校
は最後に定年退職してか

解説部 馬場 錦成

バザーで買った

ヤシの実

「ヤシの実から、生きたサンリが現れた!」・京都市東山区今熊野町ノ森町、税理士星川泰義さん(65)が先づ市内のホテルで開かれたチャリティーバザーでヤシの実を貰い、家庭で食べようとしたところ、体長7ミリのちいちやな虫が動いていた。よく見ると、ハサミや針のついた尾があり、「サンリでは...」とびつづり。鑑定した東都市青少年科学センターでも「小さいが、間違ひなくサンリです」とござり。

ヤシの実から出て来たサンリ(一目黒茶一)

8倍に拡大すれば
サンリが出て来る



サンリは、クモ類の仲間で熱帯、亜熱帯地方を中心と約100もの大陸から一気に擴たないものまで約6百種が生息するといわれる。日本では沖縄県の八重山諸島、宮古島などに二種類が確認されていながら、輸入植物などを水際で検疫している神戸検疫所でも、「サンリは上陸しても伝染病の如くに被害が広がることはないため、検疫の対象外になっている」とのこと。それでも「外國産の木材の割れ目に入ったまま上陸すること」がまれにあるが、ヤシの実にまぎれ込んだのは珍しいことではないといふ。今回は極めて珍しいケースだつたが、

体長7ミリ 毒心配なし

サンリが出た!

東山の税理士宅

で見つけられましたが、既にこののが発見されたが、クモ研究の専門家で日本クモ学会会員も務める大木沼健夫・進歩学院大学客員教授によると「サンリの毒性は特大に伝わっているが、これくらいの小さなサンリなら、毒も大したことはない」という。この見解しかも「気温など、風土条件が日本と原産地では違つたため、繁殖するが配らない」(同名教授)といふ。まずはひと安心。

ちなみに、輸入植物などを水際で検疫している神戸検疫所でも、「サンリは上陸しても伝染病の如くに被害が広がることはないため、検疫の対象外になっている」とのこと。それでも「外國産の木材の割れ目に入ったまま上陸すること」がまれにあるが、ヤシの実にまぎれ込んだのは珍しいことではないといふ。今回は極めて珍しいケースだつたが、